

都市再生整備計画 事後評価結果
藤沢地区

平成24年3月

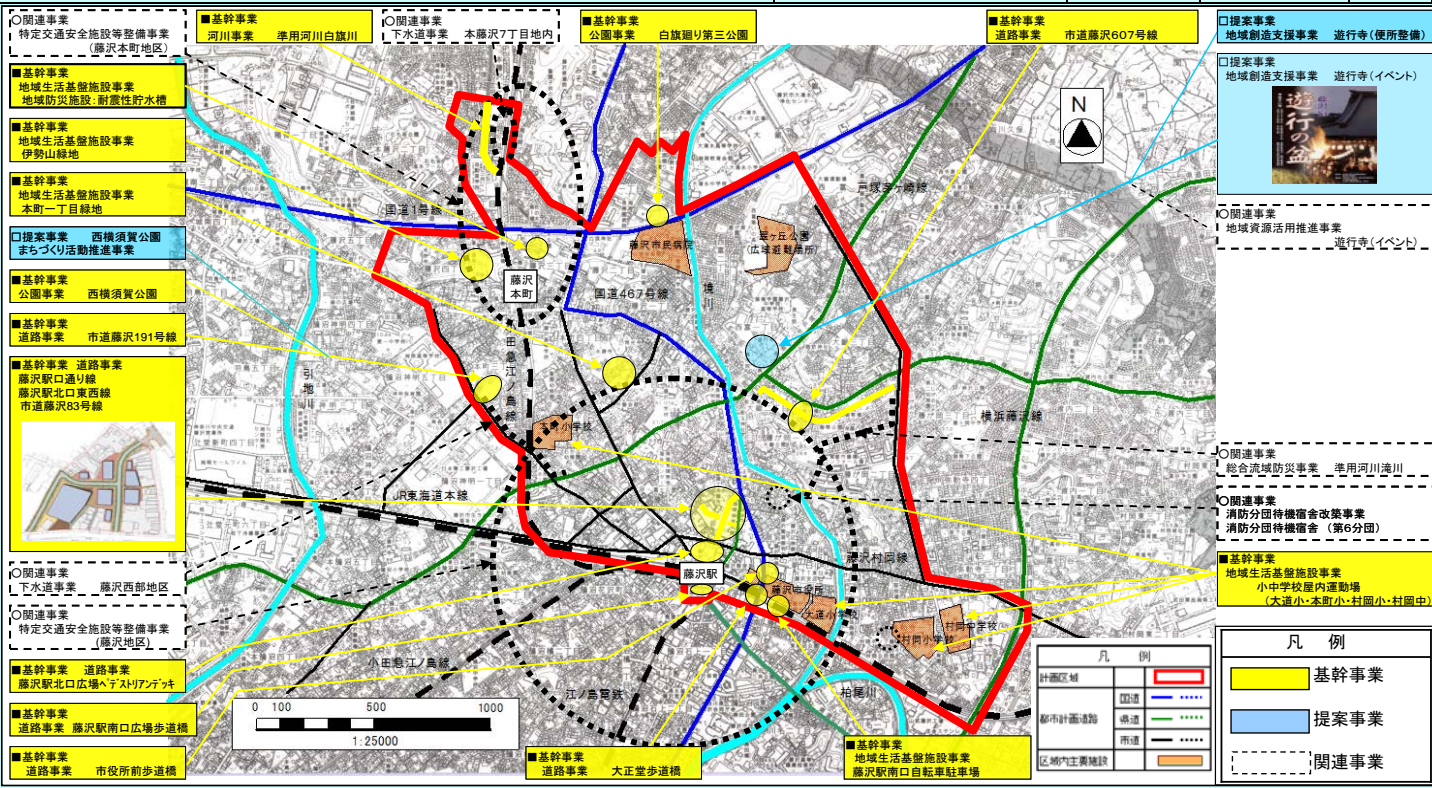
神奈川県藤沢市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県	市町村名	藤沢市	地区名	藤沢地区			面積	350ha				
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	4,312百万円	国費率	0.408						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、市道藤沢83号線、市道藤沢607号線、藤沢駅北口広場ベデストリアンデッキ、藤沢駅南口広場歩道橋、大正堂歩道橋、市役所前歩道橋、準用河川白旗川、本町一丁目緑地、藤沢駅南口自転車駐車場、大道小学校屋内運動場他3、										
		提案事業	【地域創造支援事業】遊行寺(便所1式、イベント)										
		事業名											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】藤沢駅北口東西歩行者専用道路 【公園】白旗通り第三公園 【地域生活基盤施設】第6消防分団待機宿舎他1			削除/追加の理由		【道路】別途事業により一体整備するため、事業削除 【公園】市民病院建設事業の計画変更に伴う都市再生整備計画期間内での取りやめによる事業削除 【地域生活基盤施設】関連事業へ移行					
		提案事業	—					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 【公園】指標1(来街者数)に関連するが、指標及び数値目標は据置 【公園】指標3(地震・風水害に強い都市満足度)に関連するが、指標及び数値目標は据置 【地域生活基盤施設】影響なし(関連事業へ移行)					
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】市道藤沢191号線【公園】西横須賀公園 【地域生活基盤施設】①伊勢山緑地、②藤沢西地区耐震性貯水槽			【道路】公園事業のため、関連する道路改良の事業追加 【公園】地元合意形成が早まったため事業追加 【地域生活基盤施設】①防災機能の向上を図るため事業追加 ②地元合意形成が早まったため事業追加		【道路】【公園】【地域生活基盤施設①②】 指標3(地震・風水害に強い都市満足度)に関連するが、指標及び数値目標は据置					
	提案事業	【まちづくり活動推進事業】ワークショップ事業(西横須賀公園)			地元住民とのワークショップ実施による事業追加		指標3(地震・風水害に強い都市満足度)に関連するが、指標及び数値目標は据置						
	交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—						
		変更	—										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	来街者数	人/日	95,869	H14	105,869	H23	—	63,503	×	あり	来街者増加の要因として見込んでいた百貨店の進出計画の撤回により、来街者数を増加できなかったが、活性化事業により、賑わいの再生に寄与した面もある。また、藤沢駅周辺地区再整備基本計画と連携を図り、地元活力をさらに活性化するとともに、新たな商業施設や産業拠点施設を誘導しており、今後、来街者増加が期待される。	平成24年7月
	指標2	浸水区域の縮小	ha	29.5	H16	21.0	H23	—	12.8	○	あり	浸水被害が発生している滝川・白旗川流域において、河川改修事業等を行った。その結果、浸水区域が縮小し、水害に対する地域住民の安全性の確保が図られた。	平成24年7月
	指標3	地震・風水害に強い都市づくりに対する満足度	順位	47	H18	25	H23	—	7	○	あり	駅北口デッキの耐震補強等の対策、屋内運動場の耐震補強等の災害時の備えの充実及び浸水被害の発生している河川の改修事業により、住民の安全性が確保され、その結果、地震・風水害に強い都市満足度が相対的に高まった。	平成24年7月
指標4	藤沢駅周辺の交通の便利さや活気に対する満足度	順位	33	H18	10	H23	—	34	×	あり	北口道路整備が未完了で効果発現が十分とは言えない状況にあり、相対的な数値には反映されなかったが、駅周辺の活性化のためのイベント開催等により、地域の街づくり機運が高まりつつあり、今後の整備推進、周辺土地利用活性化により、満足度の向上が期待される。	平成24年7月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	イベント集客数	人/日	2,350	H18			—	24,889			駅周辺の活性化を図ると同時に、観光資源を活かすことを目的とした「遊行の盆」等のイベント事業への取り組み等の結果、イベント集客数が大幅に増加し、駅北口周辺の賑わいや中心市街地の活性化に寄与した。	平成24年7月
	その他の数値指標2	地震・風水害に強い都市づくりに対する満足度の平均点	点	3,069	H18			—	3,361			駅北口デッキの耐震補強等の対策、屋内運動場の耐震補強等の災害時の備えの充実及び浸水被害の発生している河川の改修事業により、住民の安全性が確保され、その結果、地震・風水害に強い都市満足度が高まった。	平成24年7月
その他の数値指標3	藤沢駅周辺の交通の便利さや活気に対する満足度の平均点	点	3,099	H18			—	3,188			駅周辺の活性化のためのイベント開催や駅北口道路事業の着手により、地域の街づくり機運が高まりつつあり、街の活気等に対する満足度が高まった。今後、主要道路の整備推進等により、更なる満足度の向上が期待される。	平成24年7月	
4) 定性的な効果発現状況	・藤沢駅周辺の停滞感から、地元商店街を中心として、藤沢駅周辺地区の活性化を目指す「藤沢駅南北街づくり協議会」が平成21年2月に発足する等、まちづくりに対する住民の意識が高まってきている。 ・平成23年8月に藤沢地区の住民に対し行ったアンケート調査では、これまで事業を実施している防災・道路事業等の取り組みに対し、高い期待が寄せられた。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	・西横須賀公園ワークショップ ・藤沢南北まちづくり市民検討部会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・公園愛護会を設立し、維持管理等を行う。 ・市内地の公園整備においても住民の意見を踏まえた公園整備を行う。 ・各プロジェクト実施に向け住民との協働により、事業推進を図る。					
持続的なまちづくり体制の構築	・藤沢南北まちづくり市民検討部会におけるタウンマネジメント組織の設立活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・検討部会の動向を把握しつつ、タウンマネジメント組織の設立に関してバックアップする。						

藤沢地区(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
【目標】賑わいのある中心市街地の再生 目標1 活力ある中心市街地の形成 目標2 防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり	来街者数	単位:人/日	95,869	H14	105,869	H23	63,503	H23
	浸水区域の縮小	単位:ha	29.5	H16	21.0	H23	12.8	H23
	地震・風水害に強い都市づくりに対する満足度	単位:順位	47	H18	25	H23	7	H23
	藤沢駅周辺の交通の便利さや活気に対する満足度	単位:順位	33	H18	10	H23	34	H23
	イベント集客数	単位:人/日	2,350	H18	—	—	24,889	H23
	地震・風水害に強い都市づくりに対する満足度の平均点	単位:点	3,069	H18	—	—	3,361	H23
	藤沢駅周辺の交通の便利さや活気に対する満足度の平均点	単位:点	3,099	H18	—	—	3,188	H23



まちの課題の変化

- ・北口通り線、北口東西線等の事業進捗に合わせ、土地利用の機能更新の動きが始まりつつあるが、土地利用の機能更新の一層の促進が必要である。
- ・「遊行の盆」は年々参加人数が増加し、また、市民検討部会にて、タウンマネジメント組織設立が検討されているなど、地元の動きが活性化されてきたが、中心市街地の一層の活性化が必要である。
- ・歩道橋の耐震性が図られ、災害時の人的被害を未然に防ぐとともに、バリアフリー化が図られた。
- ・地区の避難施設の耐震化、橋梁の落下防止、オープンスペース確保されたことにより、災害時の市民の安全確保、避難路の確保が図られた。今後とも、更なる地域の防災性の向上に取り組む必要がある。
- ・準用河川滝川及び白旗川の河川改修が整備されたことにより、大雨による浸水被害のおそれのあるエリアが縮小した。
- ・身近な公園や緑地として潤いと安らぎを与える緑の空間を整備したことで、市街地のオープンスペースの確保が図られた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・まちづくり活性化の推進のため、藤沢駅周辺街並みや景観、回遊性等や土地利用の機能更新など地元の商業関係者らと一定のルールをつくり、地域住民主体の街づくりを進める。
- ・駅北口の土地利用の機能更新を促進させるため、駅からの南北方向及び東西方向の動線のネットワーク化を図る。
- ・中心市街地の活性化を促進させるため、藤沢駅の南北地区の連携を図り、藤沢駅周辺全体での計画策定を行っていく。また、実施事業の着実な推進により基盤整備及び土地利用促進を図っていく。
- ・上記実施にあたっては、今年度末に取り纏め予定の「藤沢駅周辺地区再整備基本計画」との連携を図る。
- ・地域資源などの利用価値向上のため、地域資源である遊行寺などを賑わいや観光拠点としての利活用を進めるとともに地域主体によるイベント等の実施に向けて指導していく。
- ・防災性や安全性の向上のため、緊急避難路及び緊急輸送路と指定している箇所から優先的に、耐震補強等を行い、災害時の避難路を確保していくとともに、地域に不足する防災機能の強化に取り組む。また、防災訓練事業等を実施し、住民の防災意識を高め、災害時に迅速かつ的確な対応ができるようにする。
- ・公園等の緑のオープンスペースにおける市民による維持管理体制を構築する。